

新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性「目標水準」のイメージ例

- 本報告第3章で示した「新しい時代の学びを実現する学校施設の姿(ビジョン)」(以下「新学校施設ビジョン」という。)を基本とし、学校設置者の当面の(2020年代を通じて実現する)整備において、重点化すべき方向性を「新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性(目標水準)」(仮称)(以下「目標水準」という。)として提示する。
- 学校設置者においては、学校施設の整備に当たって、学校施設の計画・設計上の留意事項を示した「学校施設整備指針」も活用しつつ、目標水準を踏まえた計画的・効率的な整備を推進することが重要である。
- この際、首長部局等との横断的な検討体制を構築し、教育環境の向上と整備コストの最適化を図ることが重要である。

※ 目標水準については、「安全・安心で持続可能な教育環境確保の視点から、施設整備の土台として着実に対応するもの」と「新しい時代の学びを実現する教育環境向上の視点から、創意工夫により特色・魅力を発揮するもの」を整理した上で、両者を一体的に推進する方向を明確化する。

※ 地方公共団体の財政状況や当該学校の実情、法的・技術的な課題等を勘案し、より実効性のあるものとして整理する。

1) 長寿命化改修による整備の場合

- 「長寿命化改修」とは、老朽化した施設を将来にわたって長く使い続けるために、単に物理的な不具合を直すのみではなく、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げるものであることを前提とする。

このため、学校設置者においては、長寿命化改修が、単に当初の建築時の状態に復旧するのではなく、時代に即応した教育環境に向上させていくものであることに十分留意することが重要である。

①安全・安心で持続可能な教育環境確保の視点から着実に対応

- ・ 老朽化した施設を長寿命化改修するに当たって、安全・安心を確保し、持続可能な教育環境を確保する視点から、施設整備の土台として着実に対応することを推進する。

○安全・安心な教育環境の実現の視点

(主な整備内容)

- ・ 非構造部材も含めた耐震対策
- ・ 老朽化対策(構造躯体の経年劣化の解消、外壁の補修、耐久性を高めるための塗装・防水、設備の更新等の老朽化対策)

- ・スロープ、多目的トイレ、エレベーター等のバリアフリー化
※避難所指定、要配慮児童生徒等の在籍状況等を踏まえて着実に対応

○持続可能な教育環境の実現の視点

(主な整備内容)

- ・壁や窓等の断熱性能向上、高効率照明等の導入等の脱炭素化
※新築に準じた施設づくりを計画することが望ましいものとして整理

②新しい時代の学びを実現する教育環境向上の視点から一体的に推進

- ・老朽化した施設を長寿命化改修するに当たって、子供たちの学び・生活・共創の場として、新しい時代の学びを実現する教育環境向上の視点から、①と一体的に推進することとし、地方公共団体や学校等の実情を踏まえた創意工夫により、特色・魅力ある学校づくりを推進する。
- ・この際、地方公共団体の教育ビジョン等を踏まえつつ、既存施設であることに起因する制約や財政状況等を勘案した上で、以下の図・表の整備方法（複数のパターンに分類・整理したもの）も参照し、整備内容を検討する。

※ 目標水準を、新学校施設ビジョンに基づき①と②に区分しているが、地域の課題や実際の整備方法等によって、①及び②の内容には重なりが生じることがあるとともに、①と②を必ずしも明確に分けることができないことに留意が必要である。

○柔軟で創造的な学習空間の実現の視点

(主な整備内容)

- ・既存の面積資源を有効活用・再配分し、多様な学習活動等に柔軟に対応できる空間を整備
(例：教室空間の充実、可動間仕切りの設置、多目的スペースの整備、廊下等共用部分の有効活用、図書館、職員室等)
- ・インクルーシブ教育システムの構築や合理的配慮の基礎となる環境整備(P)

○健やかな学習・生活空間の実現の視点

(主な整備内容)

- ・トイレの洋式化・乾式化
- ・特別教室、体育館等の空調整備
- ・構造や内装への木材の積極的な活用
※特に内装木質化は標準的な仕様として推進

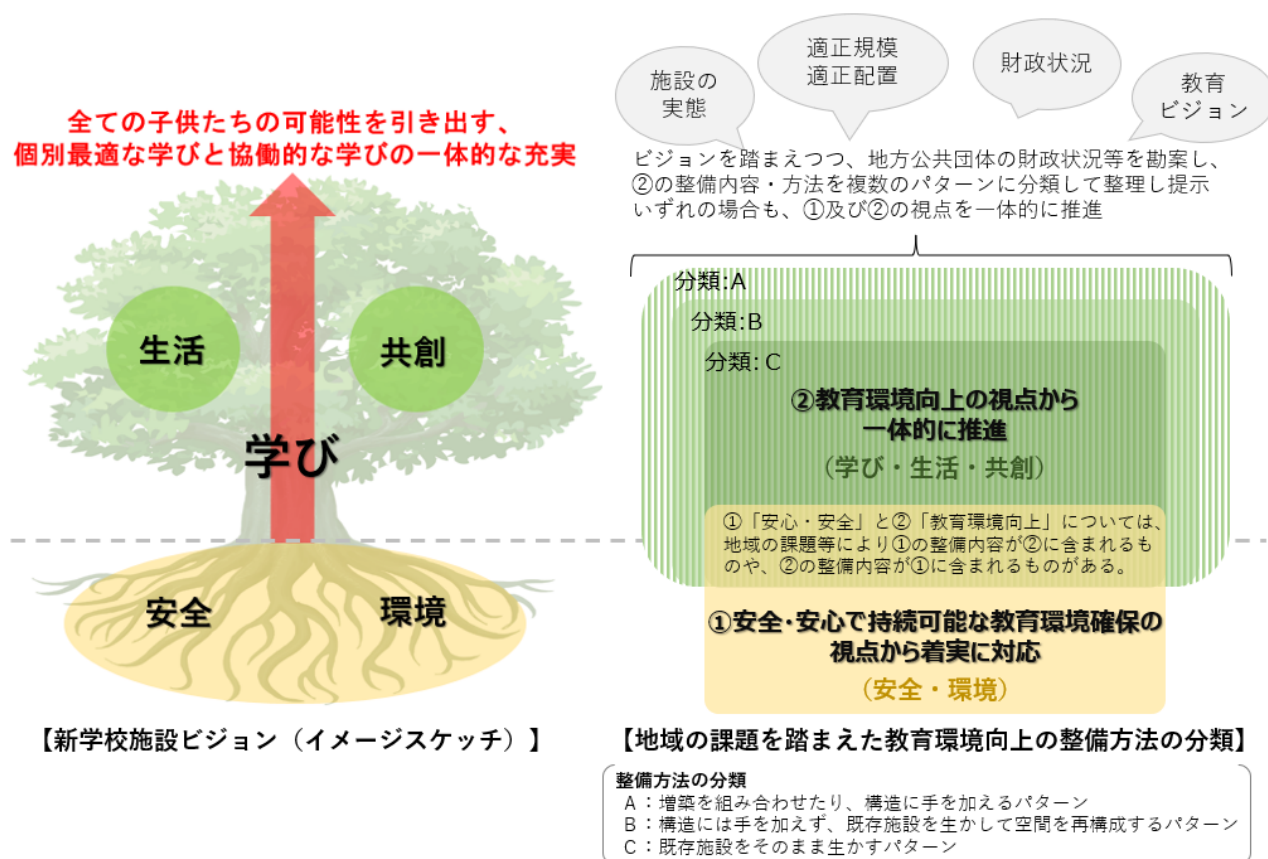
○地域や社会との連携・協働の実現の視点

(主な整備内容)

- ・既存の面積資源を有効活用・再配分し、地域の人たちと連携・協働する共

- 創空間を整備（動線整理、明瞭なゾーニング等）
- ・既存の面積資源を有効活用・再配分し、他の公共施設等と複合化・共用化
※地域の実情等に応じて、首長部局等と横断的に検討
 - ・自家発電設備や情報通信設備等の防災機能向上
※防災担当部局と連携して対応

図：新しい時代の学びを実現する学校施設整備の方向性（目標水準）イメージ



表：「柔軟で創造的な学習空間の実現の視点」に関する整備方法の分類パターン

分類	整備方法イメージ	具体的な整備内容例
A	既存の面積資源を有効活用・再配分するとともに不足するスペースを増築等により補い、多様な学習活動等に柔軟に対応できる空間を整備（可動間仕切り、多目的スペース、廊下等共用部分、図書館、職員室等） （増築を組み合わせたり、構造に手を加えるパターン）	既存のプランそのものを見直し、増築を組み合わせたり、必要に応じ、構造に手を加え壁等の位置変更を行ったりして、創造的な空間を整備。ゆとりのある教室の整備、教室と廊下の仕切りを可動間仕切りにした上で、廊下の床の木質化、温熱環境の改善等により、共用部分を有効活用。コンピューター教室と図書館を組み合わせ、学校の中心にメディアセンターを新たに整備。あわせて、執務空間を充実。
B	既存の面積資源を有効活用・再配分し、多様な学習活動等に柔軟に対応できる空間を整備（可動間仕切り、多目的スペース、廊下等共用部分、職員室等） （構造には手を加えず、既存施設を生かして空間を再構成するパターン）	既存のプランそのものを見直し、多目的な学習ができる空間（教室一つ分）を学年ごとに整備、教室と廊下の仕切りを可動式とすることで開放的な空間を整備、廊下の床の木質化、温熱環境の改善等により、共用部分を有効活用。
C	既存の面積資源を有効活用し、多様な学習活動等に対応 （既存施設をそのまま生かすパターン）	余裕教室を新しい学びに対応する創造的空間として整備、ロッカースペース等の配置の工夫等による教室空間の有効活用

2) 新築等による整備の場合

①安全・安心で持続可能な施設環境確保の視点から着実に対応

○安全・安心な教育環境の実現の視点

(主な整備内容)

- ・ 基本的な耐震性能、安全性能
- ・ スロープ、多目的トイレ、エレベーター等のバリアフリー化
※バリアフリー法に基づき着実に対応
- ・ 自家発電設備や情報通信設備等の防災機能向上
※防災担当部局と連携して対応

○持続可能な教育環境の実現の視点

(主な整備内容)

- ・ 屋根や外壁等の高断熱化、高効率照明や高効率空調機等の高効率設備の導入等により、ZEB 基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指すとともに、再生可能エネルギーを積極的に導入

②新しい時代の学びを実現する教育環境向上の視点から一体的に推進

○柔軟で創造的な学習空間の実現の視点

(主な整備内容)

- ・ 多様な学習活動等に柔軟に対応できる空間を整備
(例：教室空間の充実、可動間仕切りの設置、多目的スペースの整備、廊下等共用部分の有効活用、図書館、職員室等)
- ・ インクルーシブ教育システムの構築や合理的配慮の基礎となる環境整備(P)

○健やかな学習・生活空間の実現の視点

(主な整備内容)

- ・ トイレの洋式化・乾式化
- ・ 特別教室、体育館等を含む学習・生活空間の空調整備
- ・ 構造や内装への木材の積極的な活用
※特に内装木質化は標準的な仕様として推進

○地域や社会との連携・協働の実現の視点

(主な整備内容)

- ・ 地域の人たちと連携・協働する共創空間を整備（動線整理、明瞭なゾーニング等）
- ・ 他の公共施設等との複合化・共用化
※地域の実情等に応じて、首長部局等と横断的に検討